

一 京都哲学会公開講演会記事

恒例の京都哲学会公開講演会は、平成十一年十一月三日午後一時半から、京都大学文学部新館第三講義室において左記のごとく行われた。

一、古典力学における運動法則の歴史性

京都大学助教授 伊藤和行氏

一、アウグスティヌスのコギト

京都大学教授 片柳栄一氏

講演会は数多くの会員の方々の出席をえて盛会であつた。また講演会終了後、京大大会館において懇親会をもち、多数の会員が講演者とともに討論と歓談の一時を過ごした。

二 外国人学者来訪講演会記事

平成十一年七月より同年十二月末までに、京都大学大学院文学研究科の旧哲学系諸研究室の主催ないし共催のもとに行われた、外国人学者による講演会は、次の通りである。

シェーラ・ジャザノフ氏 (アメリカ・ハーバード大学教授)

「社会における技術——社会的構成と社会的コントロール」

平成十一年七月二日、於京都大学文学部

ユウコ・ムナカタ氏 (アメリカ・デンバー大学助教授)

「幼児における固執とそのワーキングメモリの発達研究への意義——Attention課題の神経回路網モデル」

平成十一年七月十六日、於京都大学文学部

ランドール・オリイリイ氏 (アメリカ・コロラド大学助教授)

「ワーキングメモリにおける離散的表現——仮説と計算論的検討」

平成十一年七月十六日、於京都大学文学部

ジョセップ・コール氏 (ドイツ・マックス・プランク研究所 研究員)

「霊長類における社会的知識と社会的操作」

平成十一年八月二日、於京都大学文学部

テオ・ズンダーマイアー氏 (ドイツ・ハイデルベルク大学教授)

「異邦の人を理解する——宗教観の解釈学の諸相」

平成十一年九月二十一日、於京都大学文学部

マイケル・S・マホニー氏 (アメリカ・プリンストン大学教授)

「計算の構造」

平成十一年十月十三日、於京都大学理学部

キットマン・E・フィリップス氏 (アメリカ・ウイスコンシン大学助教授)

「アメリカ合衆国における日本美術史研究の現状」

平成十一年十二月八日、於京都大学文学部

三 京都大学文学部(哲学系) 卒業論文題目

——平成十一年三月——

哲学

枝村 祥平 ライブニッツ哲学における実体

木下 剛 フッサール現象学における認識の基礎づけ

児玉 斗 ニーチェの「真理」

三原 就平 ロックの哲学における「関係」について

山崎 優子 スピノザにおける意志の自由について

手島 洋 レヴィナス哲学における形而上学と倫理

小西 崇裕 ヒュームの因果論

田中 宗利 「人間知性の諸原理に関する論考」に於けるバ
ークリの非物質論

吉田 伊織 客観的な価値規定に対する意志と衝動の意義

西洋哲学史

早瀬 篤 「ソクラテスの夢」の意味と役割についての試
論——プラトン『テアイテトス』201C~206B

日本哲学史

内海 寿子 虚無と信仰

杉本 耕一 西田幾多郎『一般者の自覚的體系』に於ける
歴史論

倫理学

神岡 康之 荀子における道徳形成過程の考察

佐々木 拓 John Lockeの『人間知性論』における「道
徳の論証可能性」について

神崎 宣次 合理性の想像力——Noddinの合理性のモデ
ルの検討

網中 奈美江 ヘーゲル『大論理学』における「存在」の意
味

宗教学

川口 茂雄 P・リクール『意志的なものと非意志的なも
の』における同意

竹内 麻恵 「ホワイトヘッドにおける宗教と科学」

筒井 史緒 ウィリアム・ジェイムズ『宗教的経験の諸相』
について

安藤 豊 スウェーデンボルグの思想——「天界と地獄」
を中心に——

桐山 泰典 自己と他者——レヴィナスから見たキルケゴ
ール——

小林 俊哉 『世界宗教史』におけるエリアーデの方法論に

についての考察

キリスト教学

佐藤 啓介 ポール・リクールにおける聖書解釈学

美学美術史学

古賀 由貴子 ジュリオ・ロマーノ、G・F・ペンニ作「モ

ンテルーチェ祭壇画」の契約について

鈴木 智子 E・ハンスリックにおける「表現」の問題に

ついての考察

長岡 昌夫 ミュンシャ・スタイルの形成について

新國 淳子 ハンスリックにおけるブラームス論の考察

吉田 朋子 フラゴナール『門』をめぐる

原 久美 ウィリアム・モリスのパタン・デザインにつ

いて

美濃部 苑子 菩薩像の絡腋及び糸帛についての研究

高田 よし恵 小津安二郎作品における主題論的反复の考察

稲見 亜紀 日本の音楽におけるパフィーの特殊性

沖田 英子 フェルメール作「音楽のレッスン」について

中国哲学史

小林 大輔 先秦諸家における「先王」権威の利用

心理学

朝倉 由希 音楽により喚起される感情などが作業能率に

及ぼす影響

稲荷 大輔 記憶における書写効果について

小川 太郎 他感覚が色知覚に及ぼす影響

上岡 祐樹 系列予測学習におけるワーキングメモリの役

割

桑畑 裕子 リスザルにおける顔の認識

小島 隆次 運動視における軌跡の知覚——知覚・言語情

報の影響——

豊田 奈央子 幼児の共感性についての発達の検討

西村 宜子 表情が顔の再認に与える影響

柘井 宏樹 要求水準の変動要因について

松本 新平 問題解決過程におけるメタ認知

矢坂 敦 向スポーツ行動の形成要因について

山内 泉 ヒトとハトにおける色弁別の比較

山本 和博 方向認知におけるサーヴェイマップの役割

——空間性ワーキングメモリの効果

鈴木 一弘 色覚障害者における色の知覚について

社会学

上野 哲男 盛り場の社会学

内田 明德 法の社会的機能の再考察

大下 耕治 スポーツ社会学——消費社会の成立とそれに伴うスポーツの変容

菊野 夏野 セックス・ワークの社会学

小島 剛 ルーマン社会システム論における秩序生成の問題

科学哲学科学史

藤原 桜子 犯罪捜査における科学の利用

金田 明子 様相量論と本質主義

瀬戸口 明久 生物多様性と保全生物学の起源

篠田 麻美 「指輪」の社会学的考察

竹内 一平 デジタルテレビ放送の社会学的分析

竹内 里欧 ノルベルト・エリアスの歴史社会学

竹中 素子 病院と現代社会——医療機関の赤字経営に関する社会学的考察——

四 京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目

寺西 利美 ダイエットの社会学

——平成十一年三月——

友野 健 戦後日本社会とマージャン文化の盛衰

哲 学

中川 清之 家族社会学の再検討

久木田 水生 ラッセルの分岐タイプ理論と還元可能性の公理

西川 知亨 ゴフマンの相互作用論の一考察

広崎 真弓 高校野球の社会学

三谷 尚澄 カントにおける世界市民の哲学とその地平

松井 隆敏 イリイチ思想から見た環境問題

有 働 尚 紀 前期ハイデガーにおける世界と超越の問題

三島 邦弘 「旅」の社会学的考察

山本 啓 自動車の問題点の社会学的考察

西洋哲学史

下前 俊輔 通過儀礼としての身体変工

大草 輝政 ソクラテスの知の表明——プラトン『弁明』における知と無知を中心に——

関本 麻香 「ブランド品」に対する社会学的考察

小川 貴史 ヘーゲル『精神現象学』における「無限性」の概念——意識から自己意識への発展をめぐる——

辻 友紀 被災高齢者の居住権に対する社会学的考察

——神戸市の事例より——

富野 聡子 企業文化の社会学的考察

錦野 匡一 アジア主義の歴史社会学的考察

長田 蔵人 カント『純粹理性批判』に於ける「世界」と

「自然」の概念について——充足理由律と二つの統一——

小林 剛 トマス・アクイナスにおける天体の質料について

津田 徹 アリストテレスの行為論——『ニコマコス倫理学』第三巻を中心として——

和田 利博 エピクロスの快樂論

千葉 清史 カントにおける《思考法》の問題——『純粹理性批判』が提示する新しい《思考法》について——

日本哲学史

宮野 美子 問柄の意義

倫理学

奥田 太郎 ヒュームの所有論

児玉 聡 ベンタムにおける功利性の原理

多賀 健太郎 アドルフという傷

深谷 太清 シェリング哲学における善と自由

宗教学

三邊 マリ子 歴史としての身体——西田幾多郎とアシシの

鶴 真一 聖フランチェスコ レヴィナスにおける主体性の問題——言語と意味作用としての主体性——

都路 恵子 宗教と倫理——瞬間における単独者の主体性について

若美 理江 ハイデガーにおける存在の真理と人間の本質

キリスト教学

小倉 和一 ジョン・ヒックの宗教多元論

美学美術史学

劔持 あずさ フィリップ・リッピ作パラッツォ・メデイチ 礼拝堂のための《幼児キリストへの礼拝》に関する一考察

深谷 訓子 ヘンドリック・テルブリュッヘン作「泣くへラクレイトスと笑うデモクリトス」に関する一考察

矢崎 由布 もうひとつの現実——ヨゼフ・ボイス（ヘアウシュヴィッツ・デモンストラティオン）を中心

古野 和歌子 文芸批評におけるハイデガー受容

Gloria Noriyo 雪舟筆「山水長巻」筆受の問題をめぐって

Shironizu

中国哲学史

内藤 英裕 王船山の史論における王安石の歴史評価をめぐって——その人物論を中心に——

東川 祥丈 劉劭の法思想について——漢末魏晉における法思想の展開に関する一考察——

インド哲学史

有國 由花 古代インドの王権論

仏教 学

白濱 海太 トウカン『一切宗義』第六章（チヨナン派）に関する研究

心 理 学

小関 宏文 初期視覚における文脈依存の動的統合過程

小杉 大輔 乳児における因果性の理解——コミュニケーションの基盤の観点から——

近藤 洋史 空間のおよび言語的ワーキングメモリの機能的相違について

徳久 愛花 ハトにおける意味記憶の構造——意味プライミングによる検討

森下 正修 リーディングスパンテストによる読みのワーキングメモリの検討——単語の保持に及ぼす

処理の効果——

土肥 英三郎 初期視覚の空間分光特性の自己組織的形成

社 会 学

石原 俊 〈歴史の収奪〉から〈収奪の歴史〉へ——沖縄占領をめぐる知と発話の歴史社会学的考察——

伊藤 晶子 戦後女性思想史の歴史社会学的考察

倉島 哲 身体技法論

芝村 龍太 地域の活性化と文化の再編成

近森 高明 大正期における「神経衰弱」の流行

福浦 一男 フランス在住西アフリカ系住民の社会動態

鈴木 幹子 稽古事の歴史社会学的考察

科学哲学科学史

石原 明子 山本宣治の産児調節運動

井上 和子 熱力学第二法則成立史——クラウジウスのエントロピーとランキンの熱力学関数——

五 京都大学大学院文学研究科（哲学系）
博士課程学修者氏名

——平成十一年三月——

哲学……沢崎壮宏、柴田健志
 西洋哲学史……松本祐史、平尾彰弘
 倫理学……小林亜津子、伊勢田哲治
 宗教学……國松萌美
 美学美術史……大原嘉豊、若林雅哉
 インド哲学史……室屋安孝、池山説郎
 仏教学……岩本明美
 心理学……梶井夏実、梅村浩之、田中茂樹
 社会学……野中亮、丸木泰史

次号論文予告

「神の像」と「人間」(二) …………… 水垣 渉
 アウグスティヌスのコギト …………… 片柳栄一
 古典力学における運動法則の歴史性 …… 伊藤和行
 複製の知覚 …………… 前川 修

前 号 目 次

「神の像」と「人間」 …………… 水垣 渉
 — 古代キリスト教における思想形成の前提と条件について —
 ヘーゲルによる「自然哲学」の改訂 …… 加藤尚武
 — その哲学体系における「数学」の抹消 —
 キリスト教信仰と宗教言語 …………… 芦名定道
 スピノザと主観性の消失 …………… 松田克進